

事業コード	H21-建-継-02		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(雪寒)		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	凍雪害防止事業(堆雪帯)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	主要地方道 神岡南外東由利線		担当課長名	小嶋 宣英
箇所名	大仙市南外小出		担当者名	主幹兼班長 遠田 久雄
総合計画との関連	政策コード	16	政策名	快適で災害に強い生活基盤づくり
	施策コード	01	施策名	四季を通じて快適な生活環境の確保
	指標コード	04	施策目標(指標)名	消融雪施設等整備率(累計)

1. 事業の概要

事業期間	H17 ~ H23 (7年)		総事業費	7.4億円	国庫補助率	6/10	
事業規模	延長L=1,000m 幅員W=9.5(1.5-0.5-5.5-0.5-1.5)						
事業の立案に至る背景	<p>主要地方道神岡南外東由利線は、旧神岡町を起点とし、旧南外村を經由して旧東由利町に至る幹線道路である。</p> <p>当該区間は、緊急確保路線であり、また、国道13号、国道105号、神宮寺駅、南外地域の防災施設へのアクセス区間であるが、幅員狭小(最小幅員W=5.0m)で人家が連坦しており、冬期は路肩堆雪による車道空間の減少により、車両相互のすれ違いが困難となっている。このため、冬期における安全で安心な生活空間を整備することが求められており、四季を通じ誰もが快適で利便性の高い道路環境の整備を実施する。</p>						
事業目的	<p>冬期間における道路空間の確保</p> <p>道路の防災対策・危機管理の充実(緊急確保路線)</p> <p>国道へのアクセスの向上</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	450,000	740,000	290,000			
	経費内訳	工事費	220,000	189,000	-31,000		
		用補費	195,000	518,000	323,000		
		その他	35,000	33,000	-2,000		
	財源内訳	国庫補助	270,000	444,000	174,000		
		県債	153,000	251,600	98,600		
その他		0	0	0			
一般財源	27,000	44,400	17,400				
事業内容	調査・設計 用地補償 堆雪帯	調査・設計 用地補償 堆雪帯			用地・建物調査の結果、曳屋及び改造で計画した移転工法が構造上及び残地スペースの関係で構外再築工法になったため。		
事業の進捗状況	平成20年度末で用地補償の進捗は6割を超えている。課題は解決済みで順調な進捗が見込まれている。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	総合計画における施策「快適で災害に強い生活基盤づくり」を支援する事業						
情勢の変化及び長期継続の理由	平成17年3月22日に旧大曲市外7町村が合併し大仙市となった。 交通量が年々増加している。(H9:3,240台/日、H11:3,461台/日、H17:3,517台/日)						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	消融雪施設等整備率					
	指標式	整備済延長/計画延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	59.5 %		データ等の出典	あきた21総合計画		
	実績値 b	60 %			H20実績		
達成率 b/a	100.8 %		把握の時期	平成21年4月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	一般県民を対象とした調査でも、幅員狭小箇所の解消に対するニーズが高い。雪を排雪することが困難な路線である。バス路線である。交通量が増加している。 H17: 3, 517台/日 (H11: 3, 461台/日、H9: 3, 240台/日)	10点
緊 急 性	事業未実施の場合、冬期の道路空間を確保できず周辺への影響が大きい。緊急確保路線であり早期の整備が必要。	15点
有 効 性	救急医療施設へのアクセスの向上。 国道、駅へのアクセスの向上。 防災施設へのアクセスの向上。	24点
効 率 性	工事発注の際はリサイクル材、プレキャスト製品の使用等によりコスト縮減を行う。現道を活かした計画とし、コスト縮減を行う。	13点
熟 度	平成20年度末で用地補償の進捗が6割を超える見込みである。問題は解決済みで、順調な進捗が見込まれる。地域住民の事業実施の意向が強い。市町村も積極的に参画している。	23点
判 定	ランク () 「熟度」「有効性」が特に高い点数となっており、冬期における安全で安心できる道路空間の確保には有効な事業箇所であり、引き続き実施すべきである。	85点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

当該事業の施工にあたっては、整備計画を踏まえ、着実に推進するとともに、引き続きコスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 凍雪害防止事業(堆雪帯)

事業コード(H21-建-継-02)
箇所名 (大仙市南外小出)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	事業の必要性					
	県民ニーズ	一般県民を対象とした調査でニーズが高い 一般県民を対象とした調査でニーズを把握 一般県民を対象とした調査を行っていない	5 3 0	5		
	社会情勢変化による需要変化	増大している 特に変化はない 低下している	5 3 0	5		
	計		10	10		
	緊急性	緊急輸送道路又は緊急確保路線				
		指定路線である 指定路線を補完する 指定路線と関連がない	5 3 0	5		
	事業未実施の影響	周辺への影響等が大きい 周辺への影響等が小さい	5 0	5		
	他事業との関連	関連事業との調整で緊急性が高い 関連事業との調整で緊急性が低い	5 0	5		
	計		15	15		
	有効性	期待される具体的効果				
	緊急医療施設へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補完する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	3		
	高速IC、空港、港湾等へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補完する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	3		
	冬期観光施設へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補完する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	3		
	積雪時の交通安全性	地域の冬期交通円滑化、安全性向上 安全性はさほど向上しない	5 0	5		
	上位計画への貢献度					
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 0	5		
	市町村合併関連	市町村合併の推進に貢献する 市町村合併の推進には特に影響しない	5 0	5		
	計		30	24		
	効率性	事業実施コストの縮減				
		該当項目数	3項目以上 2項目 無し又は1項目	5 3 0	3	
当初計画事業費との比較		減少又は10%未満の増加 10%以上30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 0	0		
交通量		1,000台/日以上 500台/日以上1,000台/日未満 300台/日以上500台/日未満 300台/日未満	10 7 4 0	10		
計			20	13		
熟度		事業の推進				
	地元の協力体制	事業に協力的で要望書等が提出されている 事業に協力的であるが要望書等は未提出 要望書が未提出で用地の反対がある	5 3 0	5		
	関係機関との協議・調整	基本事項が合意済み 協議中であるが特に問題はない 未協議	5 3 0	5		
	事業の進捗状況					
	進捗率	計画より進捗している 概ね進捗(90~100%未満) 計画より遅れている(90%未満)	5 3 1	3		
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 将来的な課題はあるが当面進捗に影響がない 課題解決の見込みがなく事業が停滞する	5 3 0	5		
	環境との調和					
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で、検討している 特に配慮はない	5 3 0	5		
計		25	23			
合計			100	85		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		